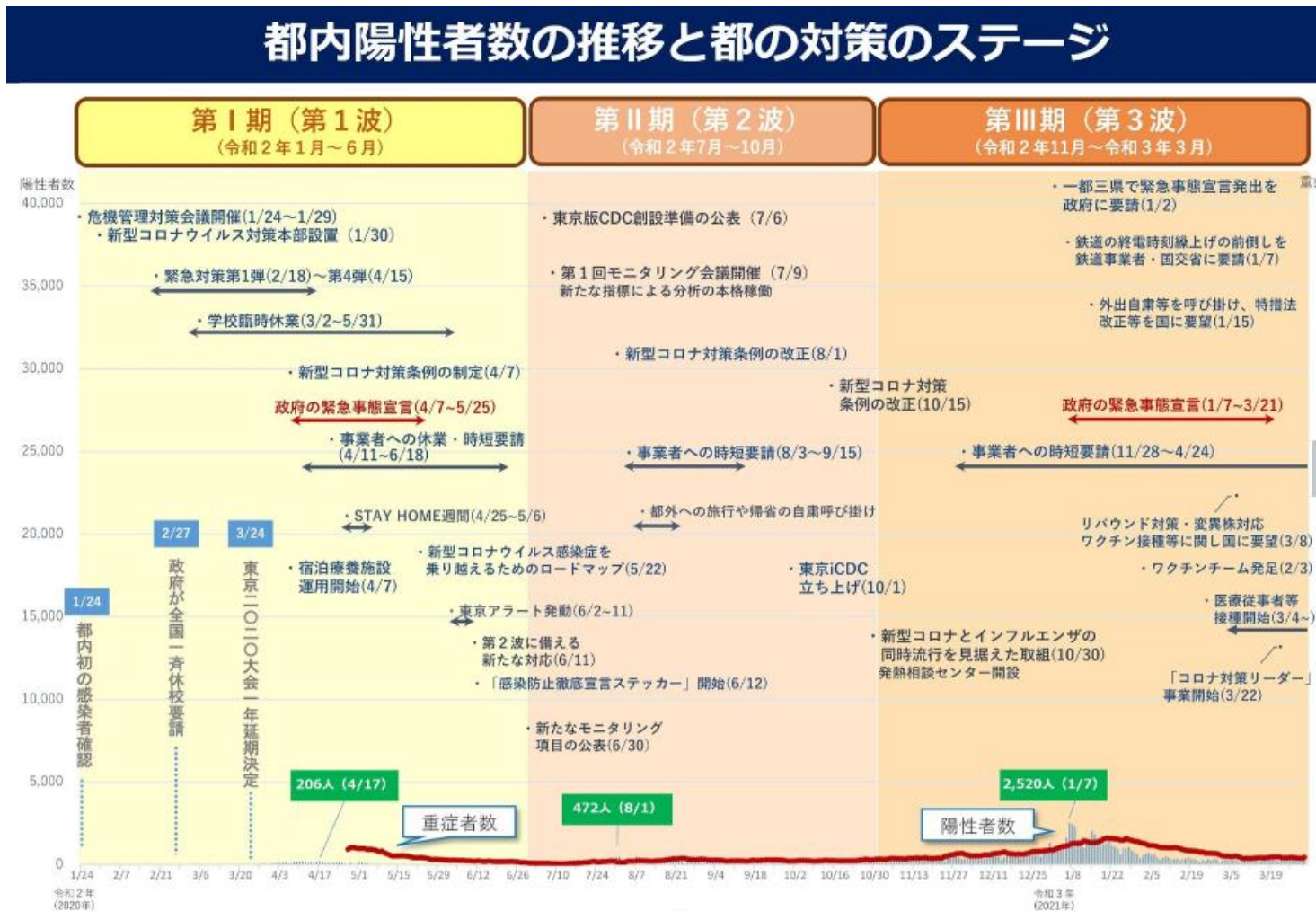


第20回町プロ多職種連携研修会 新型コロナウイルス感染症現場での振り返り

～その時何があったのか。多職種連携協働で何ができたのか。
これから何が必要なのか。～

訪問看護ステーション連絡会
在宅看護センターほうきぼし
岡元 信太郎

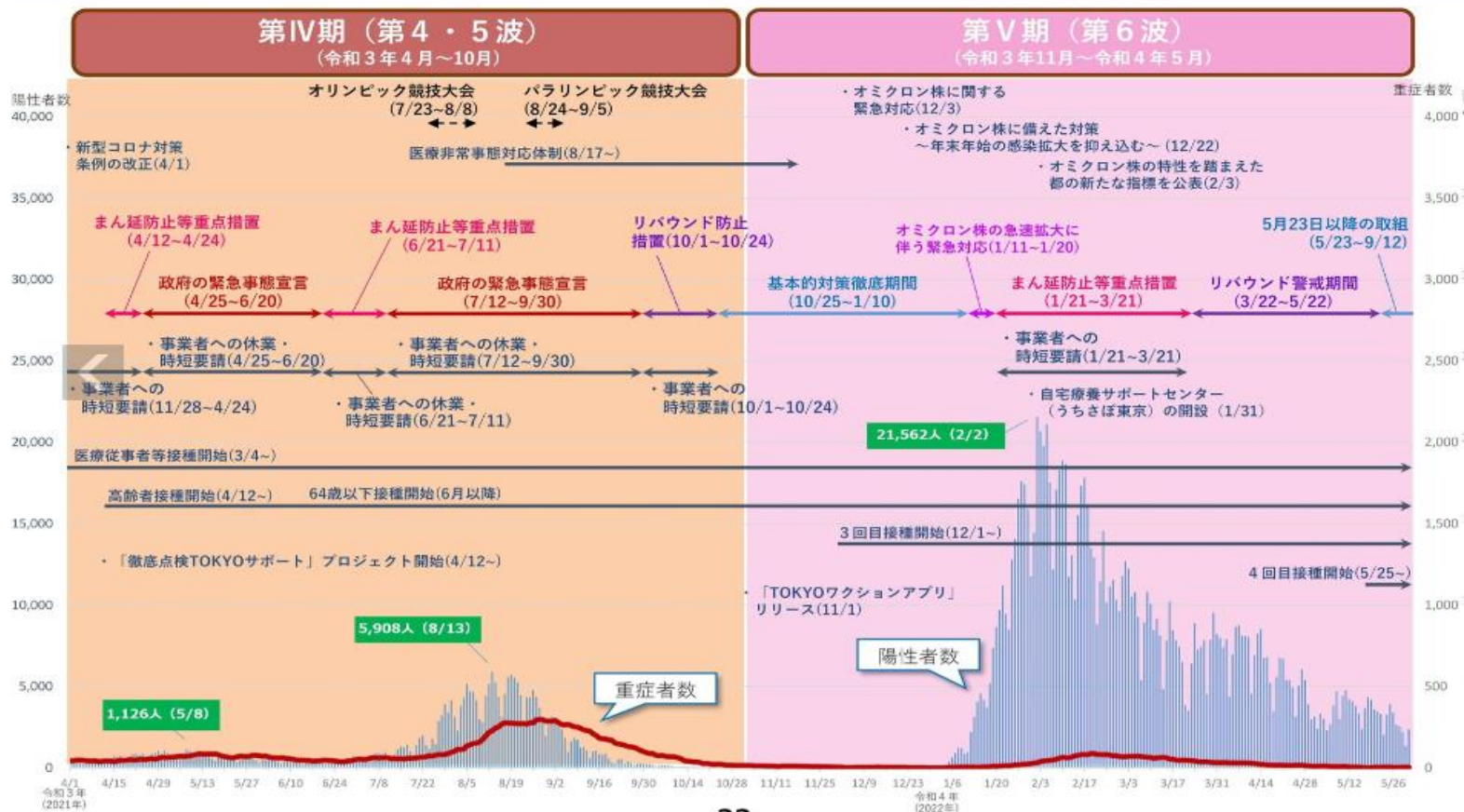
新型コロナウイルス感染症の推移



* 東京都政策企画局引用

新型コロナウイルス感染症の推移

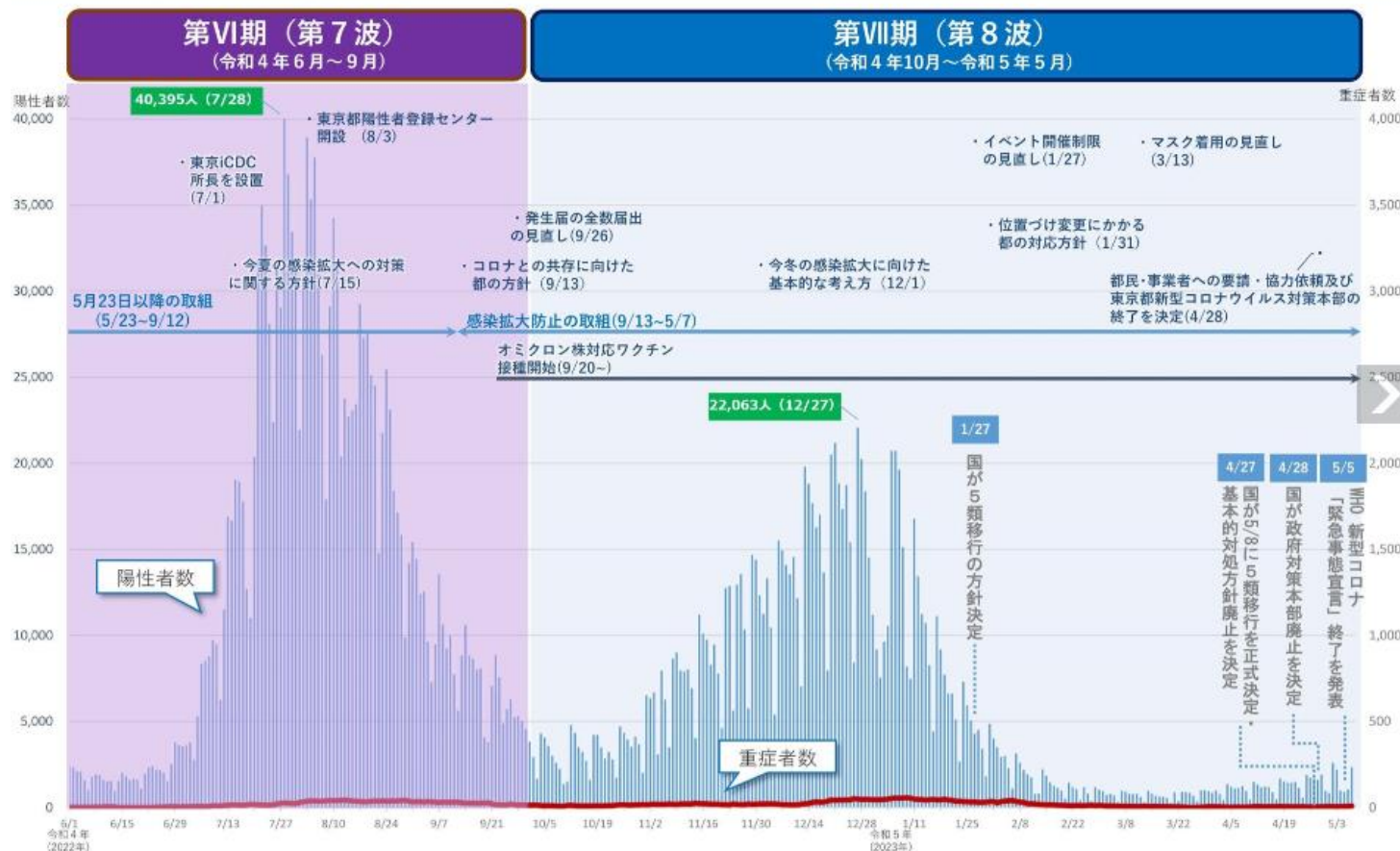
都内陽性者数の推移と都の対策のステージ



* 東京都政策企画局引用

新型コロナウイルス感染症の推移

都内陽性者数の推移と都の対策のステージ



* 東京都政策企画局引用

新型コロナウイルス感染症

町田市訪問看護ステーション連絡会での取り組み

▶ 2020年12月～ 新型コロナウイルス感染症予防対策委員会発足

第2波から第3波の急激な感染者増加に伴い、厚生労働省から発表された予防や対策を基に対策マニュアルの作成や防護服の使用方法に関する動画などの作成を行い訪問看護ステーション連絡会で情報共有を行う

▶ 2021年1月～ 在宅要介護者受入支援事業との連携開始

介護者が感染し療養入院になった場合に要介護者が検査結果が出る2日間を訪問看護による対応を実施する（各事業所により対応が分かれる）

▶ 2021年8月～10月

第5波による感染者急増により、医療機関の病床ひっ迫が再燃し在宅療養を者数が増加。医療機関との在宅療養者対応事業連携を開始する。

町田市金森に入院待機ステーションを設置。

新型コロナウイルス感染症

町田市訪問看護ステーション連絡会での取り組み

入院待機ステーションの役割

PCR検査結果待ちや重症化予防の為に中等症から軽症の患者の一時受け入れを2～3日間、医療的ケアを担う場所として設置を開始する

ステーションでは点滴や酸素吸入などのケアが受けられるような設備を整え、訪問看護ステーション連絡会からは10事業所が参加していた。



新型コロナウイルス感染症

町田市訪問看護ステーション連絡会での取り組み

▶ 2022年1月～

第6波：感染者の爆発的な増加による医療資源の枯渇が顕著になる

町田市からのエプロンや手袋などの医療資源の共有について連絡会でも共有

▶ 2022年7月～

第7波：医療連携により、在宅療養が増加傾向になる

医療機関との連携や検査キットや治療薬が広まり在宅療養へ移行するようになる

▶ 2023年5月 感染症分類が「2類」から「5類」へ変更される

新型コロナウイルス感染症

町田市訪問看護ステーション連絡会での取り組み

- ▶ 訪問の現場で起きた事例
- ▶ ①国や行政などでの感染症対策に関する情報が一元化されず対応に困った
- ▶ ②感染者と濃厚接触者への対応が初期で異なっていた為、訪問時の対応が確立できなかった。
- ▶ ③発熱者が出た際に介護度の高い利用者だと受診や検査するだけでも困難となっていた
- ▶ ④中期病院へ入院したがそのまま家族が面会も出来ずに亡くなってしまった
- ▶ ⑤5類へ感染症分類が変更されてから感染者でも入院できなくなってしまい訪問看護を行う際は、感染拡大を防ぐため訪問者を1名に絞ったため対応が大変だった

* 事前アンケートより訪問看護ステーションからの意見を一部抜粋

ご清聴
ありがとうございました

